報告２　法制制度

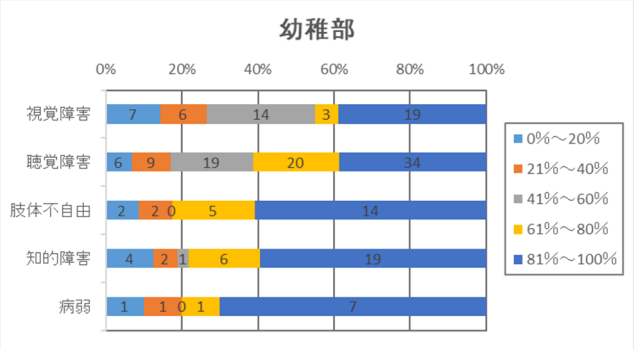
【38】特別支援学校の免許保有率

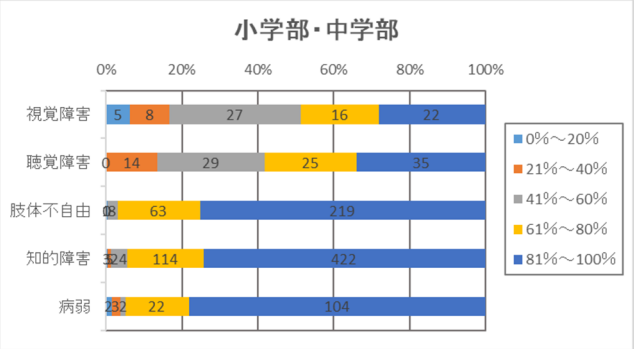
	幼稚部					小学部・中学部					高等部				
	0%～20%	21%～40%	41%～60%	61%～80%	81%～100%	0%～20%	21%～40%	41%～60%	61%～80%	81%～100%	0%～20%	21%～40%	41%～60%	61%～80%	81%～100%
合計	16	14	33	28	67	10	27	85	190	576	15	41	117	304	417
%	(10.1)	(8.9)	(20.9)	(17.7)	(42.4)	(1.1)	(3)	(9.6)	(21.4)	(64.9)	(1.7)	(4.6)	(13.1)	(34)	(46.6)

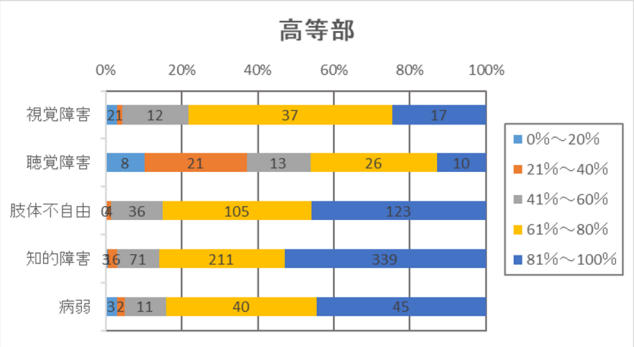
※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	6	14	3	19	5	8	27	16	22	2	1	12	37	17
%	(14.3)	(12.2)	(28.6)	(6.1)	(38.8)	(6.4)	(10.3)	(34.6)	(20.5)	(28.2)	(2.9)	(1.4)	(17.4)	(53.6)	(24.6)
聴覚障害	6	9	19	20	34	0	14	29	25	35	8	21	13	26	10
%	(6.8)	(10.2)	(21.6)	(22.7)	(38.6)	(0)	(13.6)	(28.2)	(24.3)	(34)	(10.3)	(26.9)	(16.7)	(33.3)	(12.8)
肢体不自由	2	2	0	5	14	1	0	8	63	219	0	4	36	105	123
%	(8.7)	(8.7)	(0)	(21.7)	(60.9)	(0.3)	(0)	(2.7)	(21.6)	(75.3)	(0)	(1.5)	(13.4)	(39.2)	(45.9)
知的障害	4	2	1	6	19	3	5	24	114	422	3	16	71	211	339
%	(12.5)	(6.3)	(3.1)	(18.8)	(59.4)	(0.5)	(0.9)	(4.2)	(20.1)	(74.3)	(0.5)	(2.5)	(11.1)	(33)	(53)
病弱	1	1	0	1	7	2	3	2	22	104	3	2	11	40	45
%	(10)	(10)	(0)	(10)	(70)	(1.5)	(2.3)	(1.5)	(16.5)	(78.2)	(3)	(2)	(10.9)	(39.6)	(44.6)
合計	20	20	34	35	93	11	30	90	240	802	16	44	143	419	534
%	(0.8)	(0.8)	(1.3)	(1.4)	(3.7)	(0.4)	(1.2)	(3.6)	(9.5)	(31.7)	(0.6)	(1.7)	(5.6)	(16.6)	(21.1)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。







幼稚部は他と比較すると保有率は低い傾向にあることが見て取れる。

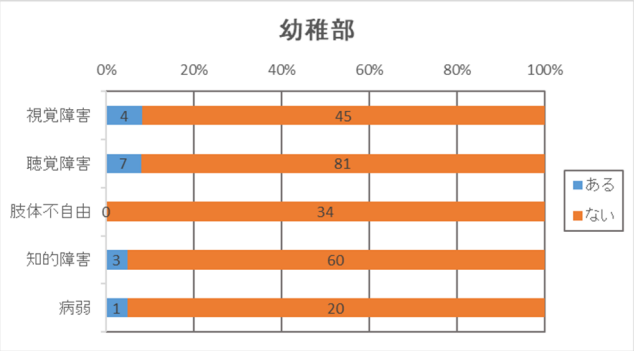
【39】就学相談等において学校教育法施行令の一部改正が学校経営に影響がありましたか。

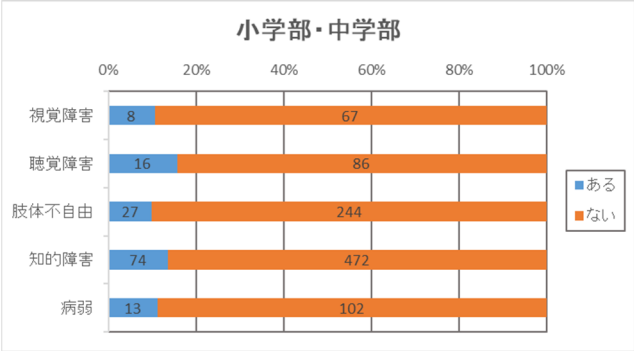
	幼稚部		小学部・中学部		高等部	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
合計	12	181	106	730	41	809
%	(6.2)	(93.8)	(12.7)	(87.3)	(4.8)	(95.2)

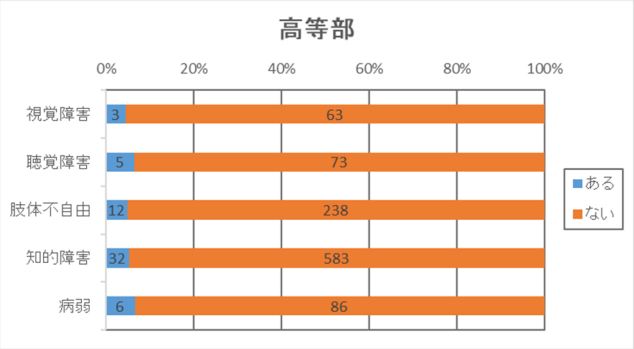
※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	4	45	8	67	3	63
%	(8.2)	(91.8)	(10.7)	(89.3)	(4.5)	(95.5)
聴覚障害	7	81	16	86	5	73
%	(8)	(92)	(15.7)	(84.3)	(6.4)	(93.6)
肢体不自由	0	34	27	244	12	238
%	(0)	(100)	(10)	(90)	(4.8)	(95.2)
知的障害	3	60	74	472	32	583
%	(4.8)	(95.2)	(13.6)	(86.4)	(5.2)	(94.8)
病弱	1	20	13	102	6	86
%	(4.8)	(95.2)	(11.3)	(88.7)	(6.5)	(93.5)
合計	15	240	138	971	58	1043
%	(0.6)	(9.7)	(5.6)	(39.4)	(2.4)	(42.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。







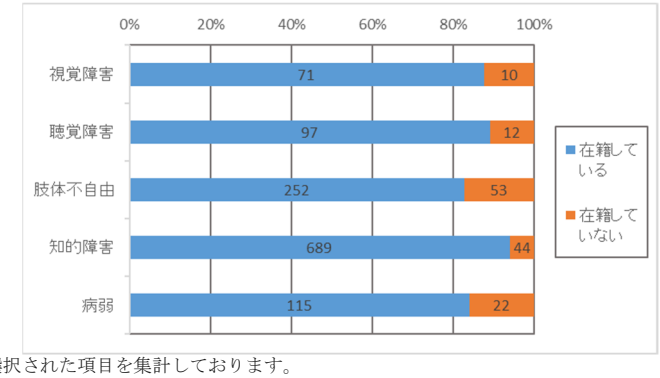
どの学年、種別でもほとんどに影響がみられない、ということがわかる。

【40】発達障害と思われる幼児児童生徒の在籍状況

	在籍している	在籍していない
合計	948	119
%	(88.8)	(11.2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

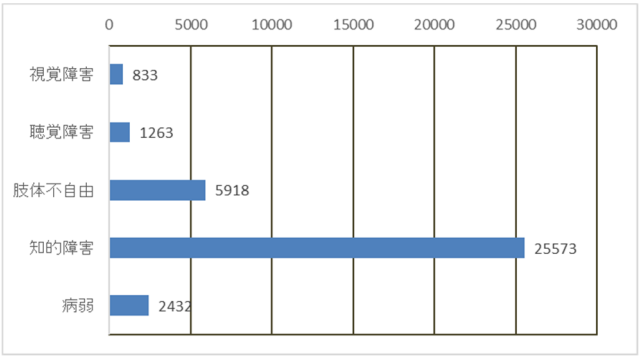
視覚障害	71	10
%	(87.7)	(12.3)
聴覚障害	97	12
%	(89)	(11)
肢体不自由	252	53
%	(82.6)	(17.4)
知的障害	689	44
%	(94)	(6)
病弱	115	22
%	(83.9)	(16.1)
合計	1224	141
%	(89.7)	(10.3)



※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【41】医療機関において発達障害と正式な診断を受けている幼児児童生徒数

視覚障害	833
聴覚障害	1263
肢体不自由	5918
知的障害	25573
病弱	2432



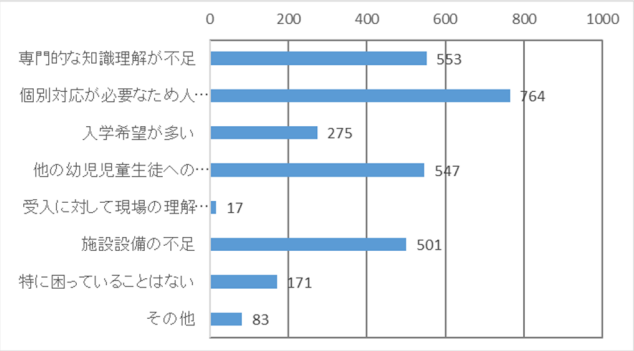
【42】発達障害幼児児童生徒への対応で困っていること≪複数選択可≫

	専門的な知識理解が不足	個別対応が必要なため人員不足	入学希望が多い	他の幼児児童生徒への影響	受入に対して現場の理解が得られない	施設設備の不足	特に困っていることはない	その他
合計	431	570	203	425	15	372	139	67
%	(44.2)	(58.4)	(20.8)	(43.5)	(1.5)	(38.1)	(14.2)	(6.9)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	34	29	9	25	1	15	15	7
%	(47.2)	(40.3)	(12.5)	(34.7)	(1.4)	(20.8)	(20.8)	(9.7)
聴覚障害	55	66	16	52	2	29	9	6
%	(55)	(66)	(16)	(52)	(2)	(29)	(9)	(6)
肢体不自由	112	140	46	103	5	88	48	19
%	(42.7)	(53.4)	(17.6)	(39.3)	(1.9)	(33.6)	(18.3)	(7.3)
知的障害	294	452	174	318	7	316	82	43
%	(41.9)	(64.5)	(24.8)	(45.4)	(1)	(45.1)	(11.7)	(6.1)
病弱	58	77	30	49	2	53	17	8
%	(47.2)	(62.6)	(24.4)	(39.8)	(1.6)	(43.1)	(13.8)	(6.5)
合計	553	764	275	547	17	501	171	83
%	(19.0)	(26.2)	(9.4)	(18.8)	(0.6)	(17.2)	(5.9)	(2.9)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



専門的な知識を持った人員の不足がどの種別でも問題点として掲げられている。

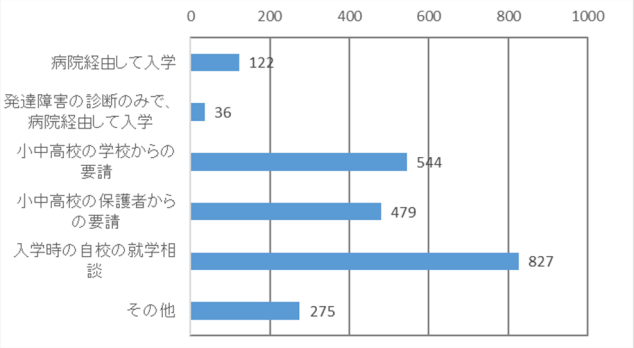
【43】発達障害の幼児児童生徒の入学までの経緯≪複数選択可≫

	病院経由して入学	発達障害の診断のみで、病院経由して入学	小中高校の学校からの要請	小中高校の保護者からの要請	入学時の自校の就学相談	その他
合計	92	25	395	362	628	218
%	(9.7)	(2.6)	(41.8)	(38.3)	(66.4)	(23)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	4	2	20	25	52	15
%	(5.8)	(2.9)	(29)	(36.2)	(75.4)	(21.7)
聴覚障害	10	1	22	20	68	33
%	(10.4)	(1)	(22.9)	(20.8)	(70.8)	(34.4)
肢体不自由	27	8	108	88	170	55
%	(10.7)	(3.2)	(42.7)	(34.8)	(67.2)	(21.7)
知的障害	30	18	345	305	475	148
%	(4.4)	(2.6)	(50.5)	(44.7)	(69.5)	(21.7)
病弱	51	7	49	41	62	24
%	(42.5)	(5.8)	(40.8)	(34.2)	(51.7)	(20)
合計	122	36	544	479	827	275
%	(5.3)	(1.6)	(23.8)	(21.0)	(36.2)	(12.0)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



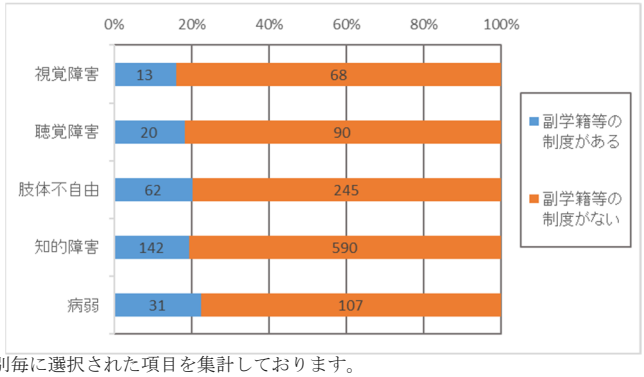
種別によって入学経緯に若干のばらつきがあるが、学校からの要請、保護者からの要請、就学相談で入学するケースが多いことがわかる。

【44】あなたの県や市は，副学籍等の制度がありますか。《単一選択》

	副学籍等の制度がある	副学籍等の制度がない
合計	212	857
%	(19.8)	(80.2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	13	68
%	(16)	(84)
聴覚障害	20	90
%	(18.2)	(81.8)
肢体不自由	62	245
%	(20.2)	(79.8)
知的障害	142	590
%	(19.4)	(80.6)
病弱	31	107
%	(22.5)	(77.5)
合計	268	1100
%	(19.6)	(80.4)



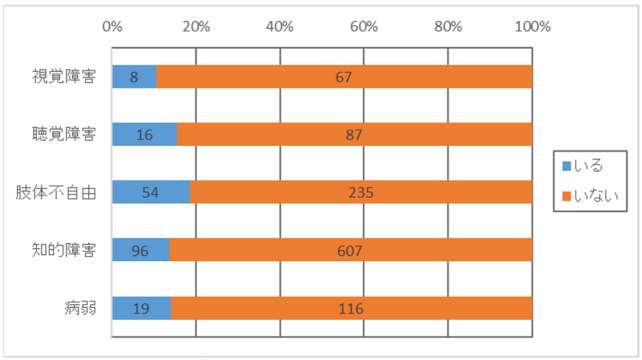
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【45】副学籍等を実施している児童生徒がいますか。《単一選択》

	いる	いない
合計	144	877
%	(14.1)	(85.9)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	8	67
%	(10.7)	(89.3)
聴覚障害	16	87
%	(15.5)	(84.5)
肢体不自由	54	235
%	(18.7)	(81.3)
知的障害	96	607
%	(13.7)	(86.3)
病弱	19	116
%	(14.1)	(85.9)
合計	193	1112
%	(14.8)	(85.2)



※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

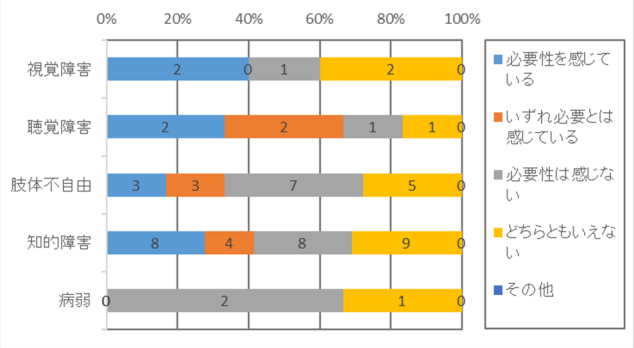
【46】副学籍等の必要性を感じますか。《単一選択》

	必要性を感じている	いずれ必要とは感じている	必要性は感じない	どちらともいえない	その他
合計	13	7	12	14	0
%	(28.3)	(15.2)	(26.1)	(30.4)	(0)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	2	0	1	2	0
%	(40)	(0)	(20)	(40)	(0)
聴覚障害	2	2	1	1	0
%	(33.3)	(33.3)	(16.7)	(16.7)	(0)
肢体不自由	3	3	7	5	0
%	(16.7)	(16.7)	(38.9)	(27.8)	(0)
知的障害	8	4	8	9	0
%	(27.6)	(13.8)	(27.6)	(31)	(0)
病弱	0	0	2	1	0
%	(0)	(0)	(66.7)	(33.3)	(0)
合計	15	9	19	18	0
%	(24.6)	(14.8)	(31.1)	(29.5)	(0.0)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



副学籍の制度自体がなく、実施されている学校数も少ない。

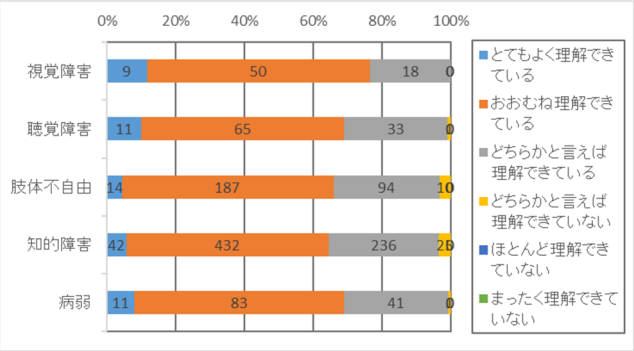
【47】基礎的環境整備や合理的配慮の考え方について教職員の理解はどの程度図られていますか。（単一回答）

	とてもよく理解できている	おおむね理解できている	どちらかと言えば理解できている	どちらかと言えば理解できていない	ほとんど理解できていない	まったく理解できていない
合計	55	643	337	32	0	0
%	(5.2)	(60.3)	(31.6)	(3)	(0)	(0)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	9	50	18	0	0	0
%	(11.7)	(64.9)	(23.4)	(0)	(0)	(0)
聴覚障害	11	65	33	1	0	0
%	(10)	(59.1)	(30)	(0.9)	(0)	(0)
肢体不自由	14	187	94	10	0	0
%	(4.6)	(61.3)	(30.8)	(3.3)	(0)	(0)
知的障害	42	432	236	25	0	0
%	(5.7)	(58.8)	(32.1)	(3.4)	(0)	(0)
病弱	11	83	41	1	0	0
%	(8.1)	(61)	(30.1)	(0.7)	(0)	(0)
合計	87	817	422	37	0	0
%	(6.4)	(59.9)	(31.0)	(2.7)	(0.0)	(0.0)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



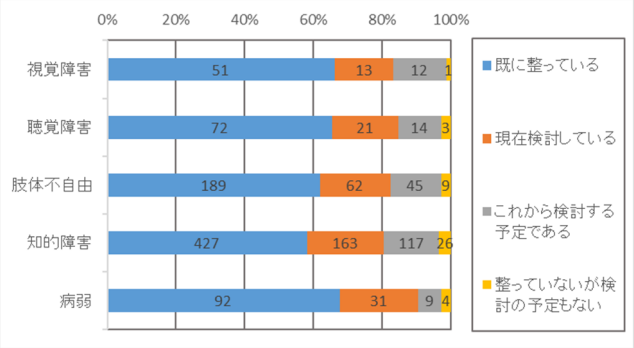
【48】個別の教育支援計画に「合理的配慮」の内容を記載する様式は整っていますか。（単一回答）

	既に整っている	現在検討している	これから検討する予定である	整っていないが検討の予定もない
合計	625	236	165	38
%	(58.7)	(22.2)	(15.5)	(3.6)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	51	13	12	1
%	(66.2)	(16.9)	(15.6)	(1.3)
聴覚障害	72	21	14	3
%	(65.5)	(19.1)	(12.7)	(2.7)
肢体不自由	189	62	45	9
%	(62)	(20.3)	(14.8)	(3)
知的障害	427	163	117	26
%	(58.3)	(22.2)	(16)	(3.5)
病弱	92	31	9	4
%	(67.6)	(22.8)	(6.6)	(2.9)
合計	831	290	197	43
%	(61.1)	(21.3)	(14.5)	(3.2)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



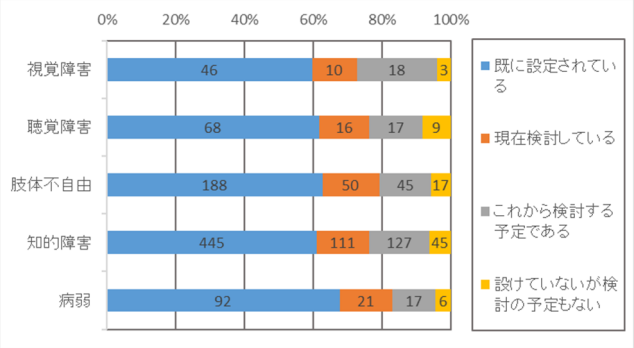
【49】合理的配慮の内容を柔軟に見直すための相談や会議の場は設けられていますか。（単一回答）

	既に設定されている	現在検討している	これから検討する予定である	設けていないが検討の予定もない
合計	643	166	183	65
%	(60.8)	(15.7)	(17.3)	(6.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	46	10	18	3
%	(59.7)	(13)	(23.4)	(3.9)
聴覚障害	68	16	17	9
%	(61.8)	(14.5)	(15.5)	(8.2)
肢体不自由	188	50	45	17
%	(62.7)	(16.7)	(15)	(5.7)
知的障害	445	111	127	45
%	(61.1)	(15.2)	(17.4)	(6.2)
病弱	92	21	17	6
%	(67.6)	(15.4)	(12.5)	(4.4)
合計	839	208	224	80
%	(62.1)	(15.4)	(16.6)	(5.9)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



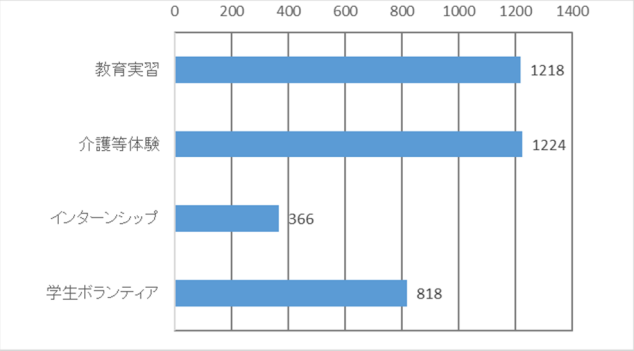
【50】次世代の教員養成に協力するための取組として大学が行う教育実習，介護等体験，インターンシップ，学生ボランティア活動に協力をしていますか。

	教育実習	介護等体験	インターンシップ	学生ボランティア
合計	940	947	276	622
%	(94.1)	(94.8)	(27.6)	(62.3)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	63	72	20	44
%	(86.3)	(98.6)	(27.4)	(60.3)
聴覚障害	102	102	23	57
%	(97.1)	(97.1)	(21.9)	(54.3)
肢体不自由	288	287	96	199
%	(97)	(96.6)	(32.3)	(67)
知的障害	663	656	197	450
%	(96.1)	(95.1)	(28.6)	(65.2)
病弱	102	107	30	68
%	(87.9)	(92.2)	(25.9)	(58.6)
合計	1218	1224	366	818
%	(33.6)	(33.8)	(10.1)	(22.6)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



「教育実習」「介護等体験」の取り組みは多く行われている。

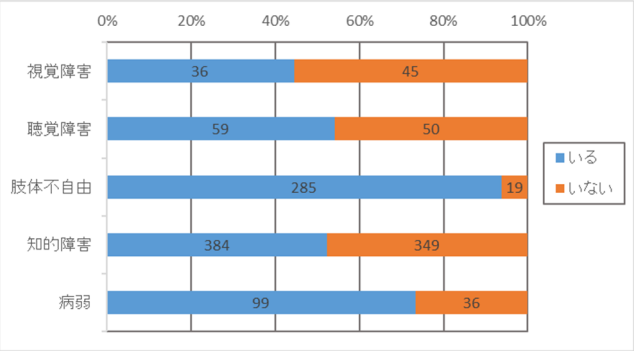
【51】医療的ケアを必要とする児童生徒の有無

	いる	いない
合計	599	466
%	(56.2)	(43.8)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	36	45
%	(44.4)	(55.6)
聴覚障害	59	50
%	(54.1)	(45.9)
肢体不自由	285	19
%	(93.8)	(6.3)
知的障害	384	349
%	(52.4)	(47.6)
病弱	99	36
%	(73.3)	(26.7)
合計	863	499
%	(63.4)	(36.6)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



さいごに

　基礎的環境整備や合理的配慮のニーズ事態を学校側が認識するための会議体の設置、計画は年々整備されつつあることが調査結果から見て取れる。